



ものづくり愛知と生物多様性

～クルマの次は、遺伝子資源産業～

グループ名：生物多様性

メンバー：小道世忍、清水康夫、白井正章、堀井俊宏、村中勝

現状の把握(課題認識)

生物多様性の保全

保全が中心。活用における具体性が欠如

未曾有の県財政の危機

・2009年の法人二税2008年度当初予算 5,598億円から**64.6%減**の1,981億円にまで下落

既存の産業に続く、新たな産業の創設が必要

2030年に向けての提言の概要

ものづくり都市・愛知の産業基盤を活かした生物遺伝子資源産業の醸成

生物遺伝子資源産業の集積を行う“日本初”世界に冠たる「ジーンバイオビジネスアイランド」(愛称：**もやしもんアイランド**)を創出する。



「もやしもんアイランド」とは生物多様性資源(遺伝子資源)を活用したあらゆる産業の先端技術の拠点として整備するもの

提案の内容

愛知県に数多く存在する潜在的な生物遺伝子資源(酢・味噌・溜り・豆味噌・酒・産業用酵素等)を活用した新たな産業の振興

遺伝子資源産業の振興分野とテーマ

- **食料自給率の向上**
→ 農業(例、微生物と作物の共生による収量増加、バイオマスの資源化)
- **醸造技術の伝承と発展**
→ 食品産業(例、グローバルな嗜好に合わせた発酵食品の開発・微生物による高付加価値化)
- **消費者の健康・安心・安全志向**
→ 医薬品・化粧品
(例、微生物が産生する機能性成分の利用)
- **生活の安全を守る技術**
→ バイオレメディエーション
(例、微生物による環境浄化: 流出油・地下水汚染)

提案実現のための具体的な取り組み(アクションプラン)と実現可能性

生物遺伝子産業普及のための支援案

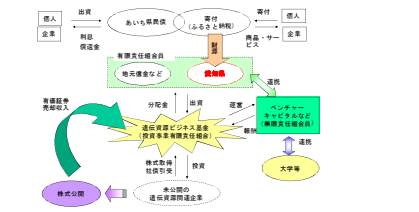
・遺伝子資源産業振興プロジェクトの設立

【遺伝子資源産業振興プロジェクトの設立】
 目的：産官学の連携による遺伝子資源の発掘と産業振興
 ● **地元産業界の動員** (ニーズと一次遺伝子資源の提供)
 ミツカン、カゴメ、シキマ、ファイザー、新日本化学、マルサン、徳田・・・
 ● **研究機関の支援** (シーズ、人的資源の活用)
 名古屋大学、愛知産業工業技術センター・・・
 ● **産官学の役割** (学研員、場所の提供、資金の拠出)

事業化テーマの掘り起こしと公募
 R&Dベンチャー企業、地産地消産業の研究施設創設、有用遺伝子資源の集積と活用

・ファンドの創設

- ① 民間資金活用型の産業振興
- ② 資金調達を通じた県民の意識向上



・土地の無償貸借

前島の大型商業施設予定地の有効利用



波及効果

・生物多様性を活用した産業が愛知県でクローズアップされることにより、県内全体の生物遺伝子資源産業が互いに刺激し合い、相乗効果によってバイオ・ミクローを活用した工業製品等の開発が活発化など、異業種に波及・発展にも繋がる。

・牽引役となるジーンバイオビジネスアイランド(愛称:もやしもんアイランド)は、ベンチャー企業を育て数々の研究成果を出し、2030年には、“愛知の生物多様性を使う産業”の技術と収益は世界競争に競り勝つ力を備える。

